



生まれてきてくれてありがとう

茅ヶ崎市保健所地域保健課長 大川寿之

私の長男はダウン症（正常の人の染色体は1番目から22番目までペアになっているが、21番染色体だけ3本の組になっている）です。この世に生を受けたわが子を初めて見たときに、両耳は内側に閉じ、目は吊り上がり、対応してくださった看護師さんの悲しそうな表情から、普通ではないと感じたところ、すぐに担当の先生に呼ばれ、「残念ながらダウン症です。ゆっくり育てていきましょう」と告げられました。どうしてこうなってしまったのか、何をすべきなのかもわからず夫婦共々混乱していました。

ダウン症の状態はそれぞれで、長男は合併症等他に目立った障害はないものの、成長は遅く、2歳半でようやく歩くようになり、現在25歳になりましたが字は書けず、言葉も発することはできません。ただ、こちらの話す内容はおおむね理解でき、作業所へ通い、スプーン・フォークを使っての食事、着替え、風呂、トイレなども補助があれば、なんとかできています。また、スポーツ観戦とディズニーが大好きで、目を輝かせて観ながら、身体全体で応援や喜びを表現している姿はとても微笑ましく、和みます。さらに、私や妻や姉や弟が悩んだり、落ち込んでいたりすると心配して肩を摩って慰めてくれたり、周りの人にもフレンドリーで、大丈夫と思った人には握手やハイタッチを求めたり、おどけて場を盛り上げるなどの気遣い、繊細でナイーブなところも可愛く、家族にとって無くてはならない存在です。

出生前診断が増えている現在、色々な考え方があるとは思いますが。私の娘がそのような状況になった場合は、検査を勧めるかもしれません。ただ、私は長男が居たからこそ多くの出会いがあり、多くを学び、優しくなれていると思います。とても幸せです。本当に生まれてきてくれてありがとう。これからもよろしくです。

